

MRA冠動脈ドックとは？

当院ではMRIを用いて冠動脈を描出し（MRA）、将来の狭心症や心筋梗塞のリスクを評価します。冠動脈のスクリーニング検査はCTを用いた**冠動脈CT**が主流ですが、放射線被ばくの他、ヨード造影剤（アレルギー反応を起こす可能性のある検査薬）や、心臓、血管に作用する薬剤の使用などといったリスクがあるため、冠動脈疾患が疑われる方、つまりリスクを上回るメリットがあると判断された患者様を対象に行うことが一般的です。これに対してMRIを用いた冠動脈ドックは、放射線や薬剤を用いることなく極めて安全に冠動脈を描出することが可能です。安全性が高い反面、従来は検査時間が長く（40～50分程度）、冠動脈CTに比べて画像が不鮮明で診断精度にも問題がありました。

当院の冠動脈ドックの特徴は、2024年春より稼働しているAI技術を取り入れた最新のMRI装置を用いることにより、撮像時間は10分程度、検査前セッティングを含めても20分前後で検査が可能となり、画質も大幅に改善されています。

MRA冠動脈ドックの限界

最新のMRI装置により従来の冠動脈MRAと比較して格段に画質が向上したものの、撮影中に体が動いたり呼吸が不規則であったりすると、十分な診断が困難となります。また、MRI非対応の体内金属やペースメーカー、入れ墨などがあるとMRI検査不可となります。

交通アクセス



国道29号線、「鳥取市立病院前」の信号をお入りください。



鳥取駅前バスターミナルから約15分「市立病院」で、降車してください。

お問い合わせ



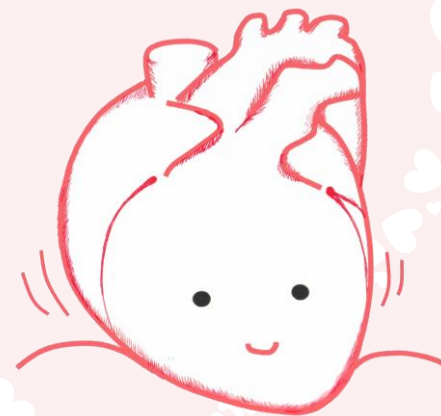
0857-37-1540 (直通)

FAX 0857-37-1560

 **鳥取市立病院**
Tottori City Hospital

〒680-8501 鳥取市市場1丁目1番地

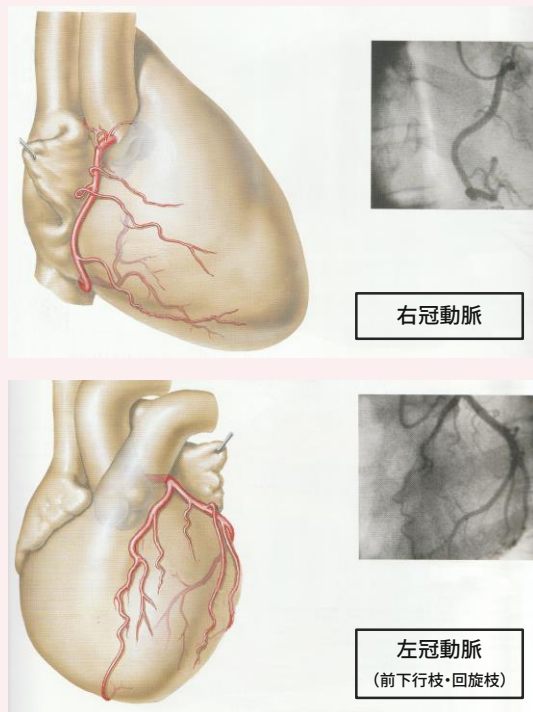
MRA 冠動脈 ドック



 **鳥取市立病院**
Tottori City Hospital

冠動脈とは？

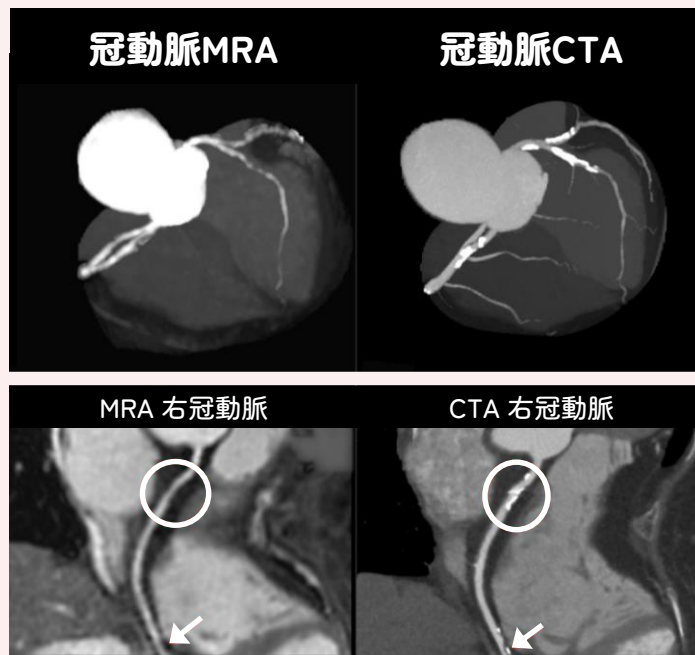
冠動脈は心臓に血液を送る重要な血管で、右冠動脈、左冠動脈の2本が大動脈より分岐し、左冠動脈は前下行枝と回旋枝にわかれます。



ネッター解剖学アトラス 原書第5版より

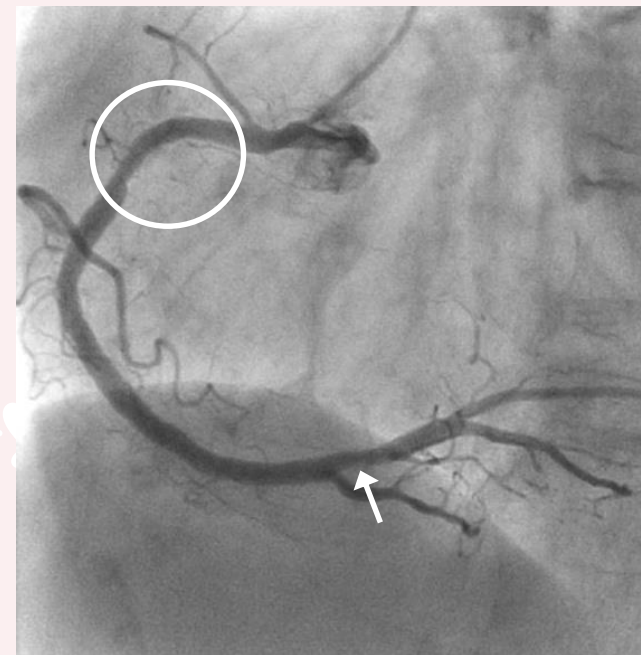
動脈硬化によって冠動脈が狭くなると、心臓に十分な酸素や栄養を供給できなくなり、運動などで心臓に負荷がかかった際に胸が苦しくなる**狭心症**や、狭くなったところに血栓が詰まって心筋の虚血、壊死を生じる**心筋梗塞**などを発症することがあります。心筋梗塞は突然死の原因の一つであり、働き盛り、責任世代と言われる50～60歳台から急増します。

冠動脈MRAと冠動脈CTA



一般に、CTAの方がより末梢まで血管を描出することが可能ですが、MRAではCTが不得手とする石灰化病変部(○、↓)の診断に有利となる場合があります

カテーテルを用いた冠動脈造影 (右冠動脈)



冠動脈MRA ドックについて

- 冠動脈MRAドックは、**人間ドック**および**セットドック**の**追加オプション**です。人間ドックを受けられる方で、冠動脈MRAドックをご希望の方は、お電話でお申し込みの際に、お伝えください。
- 検査は、人間ドックおよびセットドック当日の午後に行います。
- 検査中、心電図の電極シールを前胸部に貼ります。

検査時間 **約20分** ※1
料 金 **20,900円** ※2

※1 状況により検査時間は前後します。

※2 冠動脈MRAドックのみの料金です。別途、受けられたドックや追加オプション検査の費用が発生します。